

6月5日は環境の日

人間が便利さを追求した結果、CO₂などの温室効果ガスが増え、地球の温度が年々上昇し、今や地球温暖化が深刻な問題となっています。

6月5日は「環境の日」。これは昭和47年（1972）6月5日、ストックホルムで開催された国連人間環境会議を記念して定められたものです。日本では6月の1カ月間を環境保全の重要性を認識し、行動の契機とするよう「環境月間」としてしています。

私たちは今、CO₂削減のための具体的な行動を起こすことが求められています。低炭素社会を目指して、一人ひとりが身近なことができることから取り組んでいきましょう。

地球温暖化とは？

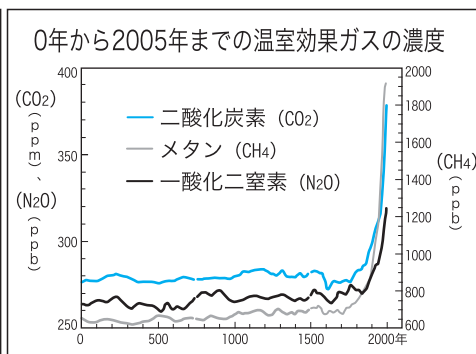
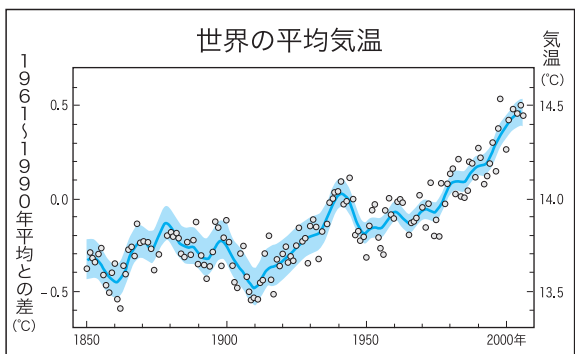
地球を包んでいる大気にはCO₂（二酸化炭素）などの温室効果ガスが含まれ、地球に届いた太陽の熱の一部を逃がさないようにしています。そのため、地球の平均気温は15と動植物が暮らしやすい気温に保たれています。

しかし、18世紀に始まった産業革命以降の化石燃料（石油、石炭など）の使用量の増大に伴い、CO₂を始めとする温室効果ガスの大気中の濃度が増加を続け、また、土地利用

の変化によって地球の平均気温が上昇しています。これが地球温暖化と呼ばれる現象です。

世界の温室効果ガス排出量と気温の上昇

CO₂ 放射強制力は平成7年（1995）から平成17年（2005）にかけて20%増加しています。この温室効果ガス増加とともに、世界の気温も上昇しています。明治39年（1906）から平成17年（2005）までの100年間に、0.74 上昇しました。



特に昭和31年（1956）から平成17年の50年間の気温上昇の傾向は10年間に0.13

上がり、これは過去100年間のほぼ2倍の上昇率に相当しています。

放射強制力とは地球に出入りするエネルギーのバランスを変化させる影響力のこと。正の放射強制力は地表面を暖め、負の放射強制力は地表面を冷やす。

日本のCO₂削減目標

日本は平成20年（2008）4月から京都議定書の第1約束期間に入りました。平成2年（1990）に比べて温室効果ガス排出量を6%削減することが目標です。

しかし、平成18年度の総排出量は、逆に6.2%上回ってしまいました。温室効果ガス排出量6%削減を目指し、一人ひとりが具体的な行動を起こし、地球温暖化を止めなければなりません。



CO₂削減のための6つの行動

■温度調節で減らそう
冷房時の室温は28℃、暖房時の室温は20℃にしよう。

日差しが当たる窓にはカーテンやブラインドを下ろすことで、室温の上昇が抑えられます。また、せっかく冷やしたり暖めたりした空気を逃がさないように、窓やドアはきちんと閉めましょう。

エアコンのフィルターの汚れも消費電力増につながります。機器のメンテナンスにも気を使いましょう。

■水道の使い方減らそう
蛇口はこまめにしめよう。

シャワーを1分間出っ放しだと、何と10%にもなるのです。

風呂の残り湯を洗濯に使用したり、節水効果のあるシャワーヘッドなどの機器を導入することも効果的です。

■自動車の使い方減らそう
エコドライブをしよう。

まずエンジンのアイドリングから見直しましょう（最近の車はほとんど必要ないと言われています）。また、1分以上の停止を目安にエンジン停止を心がけましょう。

環境のまちづくりがスタートしました

環境のまちづくりの第一歩となる「那珂川町環境基本計画」が今年3月に策定されました。

この計画は、平成19年度から地域住民や事業者、学校、行政で構成する町環境基本計画策定会議が中心となって取り組み、パブリックコメントによる公表、さらに町環境審議会の意見をお聴きし、進めてきたものです。

町はこの環境基本計画に基づき、「環境との共生」をキーワードにした、町民と一体となった環境のまちづくりを目指します。

町環境基本計画の内容

この計画は、まちづくりのテーマでもある「豊かな自然と文化に育まれ やさしさと活力に満ちたまちづくり」を実現するために、環境の視点で各計画を横断する総合的な計画で、平成30年度を目標年次とする10カ年基本構想と平

成25年度を目標年次とする前期5カ年計画からなります。

基本構想は、取り組みの基本方向を示すもので、アンケート結果や課題等を踏まえ、目指すべき環境像を「清流と水と里山 人と自然が共生する安全安心なまち」とし、この実現に向け、基本目標を美しい自然と共生するまち、

潤いと安らぎのある生活環境のまち、循環型社会を目指すまち、環境

について考え行動するまちと設定しています。

また、基本目標ごとに個別目標を設定しています。

基本計画は、個別目標ごとに現状と課題を明らかにし、展開する施策とその取り組み内容を示すもので、自然環境や生活環境、快適環境、地球環境、資源循環、エネルギー、環境教育、環境学習、参画と協働について、住民、事業者、行政が取り組むべき事柄を紹介しています。

また、計画では「重点的に取り組みを行うとする事項」をプロジェクトとして定め、積極的な推進を図るとしています。

プロジェクトは、「里山復元プロジェクト」として、とちぎの元気な森づくり県民税事業を10年間で現在の5カ所から10カ所以上へ、「生活排水処理普及率アッププロジェクト」として5年以内に生活排水処理人口普及率を現在の45%から10%以上アップの55%以上へ、「ごみ排出抑制プロジェクト」として5年以内に年間排出量5%、220t以上の削減、「バイオマスプロジェクト」として調査研究

しバイオマスを推進、「環境実践プロジェクト」として環境連絡会議（仮称）を設立、計画を推進するとしています。

今後は、この計画に基づき環境保全にとどまらず、環境の視点で将来を創造する「環境のまちづくり」がスタートすることになります。

なお、地域住民の皆さまには、町環境基本計画の概要版を作成し、配布する予定です。

環境総合推進室の設置

町は行財政改革の一環として組織改編を実施しましたが、町環境基本計画に基づく環境のまちづくりを推進するため、環境整備対策室を廃し、環境総合推進室を設置しました。

場所 馬頭本庁舎2階
☎0287・92・1110

■商品の選び方で減らそう
■工口製品を選んで買おう。

新しく家電製品を買うときにぜひ注目してほしいのが「省エネ性能」。エアコンや冷蔵庫などは省エネ性能の表示も普及し、購入の際の目安になっています。

家屋の新築や改装などの際には工口製品を検討してみてください。

■買い物とゴミで減らそう
■過剰包装を断ろう。

ちょっとした買い物で捨ててしまう手提げ袋はありませんか。買い物の際には専用のバッグをひとつ用意。普段のお出かけの際には小さく折りたためるバッグを常に携帯しておけば、必要以上の手提げ袋はいらなくなります。

またプラスチックのトレイなども極力避けてムダな包装を持ち帰らないようにしましょう。

■電気の使い方でも減らそう
■コンセントからごまめに抜こう。

電気製品を使用していないときに、タイマーなどのために消費される待機電力は家庭の電力消費の7%にもなります。使用頻度の低いものから電源プラグをコンセントから抜くよう心がけましょう。

